

Q1:風疹にはどうしたらかかるのか	A1:風疹は咳やくしゃみで飛ぶ唾液や鼻水がかかる、それらが付着した物に触ったことなどで感染が成立します。
Q2:風疹の潜伏期間(感染から症状が出るまでの期間)はどのくらいか	A2:通常は接触した日から数えて2～3週間後に発症します。
Q3:風疹患者さんに接触した場合、発症を抑える薬やワクチンがありますか	A3:風疹の場合には残念ながら接触後の発症を抑える薬やワクチンはありません。
Q4:風疹はどんな症状がでるのか	A4:カゼのような鼻水や咳、頭痛、リンパ節の腫れが1～2日続いた後、発熱と同時に発しん(ぶつぶつ)が出現します。発しんは顔面から出現し、その後全身に広がります。発しんは紅色をした小さな膨らんだ発しんで、発しん同士がくっついたようにはなりません融合する事はありません。このような症状が3日ほど続きますが、その後は熱や発しんは徐々に無くなります。
Q5:発しんは跡が残りますか	A5:残りません。
Q6:どんなことに気をつけて(潜伏期間を)生活したら良いのか	A6:発症前の注意点 ・人混みを避ける。人混みに出かけ無いといけない場合には必ずサージカルマスク(ガーゼのマスクは不可)をつけ鼻から顎まで覆う。 ・妊娠している女性や妊娠している可能性がある女性との接触は避ける。 (胎盤を通じて胎児に風疹のウイルスが移行するため胎児に悪影響(心奇形、白内障、難聴、発達障害などの障害が起こるため) ・高齢者施設や病院へは立ち入らない
Q7:接触した人が体調不良になった場合、どうするのか	A7:体調不良や怪我などで医療機関を受診する場合には、必ず受診前に医療機関に電話して、風疹患者さんとの接触者である事を必ず伝え、医療機関の指示に従って受診を行う。急を要する場合には受診受付窓口で必ず接触者である事を伝える。
Q8:風疹の合併症は	A8:合併症として脳炎や関節炎などが稀に起こる(3000から6000人に1人)場合がありますが適切な治療を行えば予後は良好と言われています。

Q9:風疹になった記憶があるから大丈夫か	A9:風疹は3日ばしかとも呼ばれ短期間で症状が改善するため、他の疾患との区別が付きにくい病気です。風疹になったと言う記憶ではなく、母子手帳などで風疹ワクチンを2回接種した記録があるのかを確かめる事をお勧めします。ワクチンを2回接種すれば99%の人が風疹にかからないと言われていす。
Q10:ワクチンはどうしたら打てるのか	A10:医療機関で接種可能 昭和37年度～昭和53年度生まれの男性に対して国が無料接種を勧めています。令和元年度は昭和47年4月2日～昭和54年4月1日生まれの男性にお住まいの市区町村から、風しん抗体検査と予防接種のクーポン券が届きます。 ※昭和37年4月2日～昭和47年4月1日生まれの男性には、来年度以降に届く予定。市区町村によっては今年度中に市区町村で受け取ることもできます。ご希望の方は、お住いの市区町村にお問い合わせ ただし、3ヶ月以内に免疫グロブリンの注射や輸血を受けた人、1ヶ月以内にワクチン接種を受けた人は接種出来ない事もあります。医療機関で接種に 妊娠している女性、あるいは妊娠しているかも知れない女性には接種は出来ません(風疹ワクチンは生ワクチン病原性を弱めたワクチンで、風疹ウイルスが胎児に移行してしまうため)。風疹ワクチン接種を希望する女性は接種前1ヶ月、接種後2ヶ月の避妊が必要となりますので注意が必要です。
Q11:風疹になったら入院するのか	A11:特別な治療薬はありません。自宅での療養が可能と医師が判断されれば自宅で療養いただけます。